

### 3.3 事前事後の評価

#### 3.3.1 評価の概要

対象高齢者が月 2 回程度の通いの場への参加や、タブレットにおける様々な機能を自宅などで使うことにより、生活機能（体と心の状態）がどのように変化するかを評価するため、事業開始後（10月）と事業終了後（2月）の2回にわたって測定会を実施した。

##### 【評価項目】

評価ツール等	内容	実施方法
運動機能評価	握力、TUGテスト、5m歩行、開眼片足立ち、30秒椅子立ち上がりテスト	専門職が数値を図ってもらう
認知機能評価	WEB版のう KNOW（認知機能検査） 【大項目】脳の反応速度チェック、注意力チェック、視覚学習チェック、記憶チェック	事前に参加者全員分のQRコードを発行し、タブレットを使ってwebページで回答してもらう
基本チェックリスト	65歳以上の高齢者が自分の生活や健康状態を振り返り、心身の機能で衰えているところがないかどうかをチェックするためのもの。生活機能の低下のおそれがある高齢者を早期に把握し、介護予防・日常生活支援総合事業へつなげるにより状態悪化を防ぐためのツール（質問数25） 【大項目】社会参加／運動／栄養／口腔／閉じこもり／認知機能／うつ	アンケート用紙を配布し、その場で回答してもらう
E-SAS （日本理学療法士協会監修）	「運動器の機能向上」の効果を、筋力やバランスといった運動機能のみによって評価するのではなく、参加者（高齢者）が活動的な地域生活の営みを獲得できたか、という視点から評価することをねらったアセスメントセット 【大項目】生活の広がり（LSA）、ころばない自信、入浴動作、歩く力（TUG）、休まず歩ける距離、人とのつながり	アンケート用紙を配布し、その場で回答してもらう

評価ツール等	内容	実施方法
栄養状態の評価	簡易栄養状態評価表 (MNA: Mini Nutritional Assessment)	アンケート用紙を配布し、その場で回答してもらう

【事前評価（10月）の実施日程】

自治体名	日時	場所
猿払村	10月6日～8日	楽楽心
喜茂別町	① 10月5日（火）10:00～ ② 10月5日（火）13:30～ ③ 10月7日（木）10:00～	健康増進センター
池田町	① 10月26日（火）10:00～	北部コミュニティ
	② 10月26日（火）13:30	ROCOCO 2号店
名寄市	① 10月15日（金）10:00～	第3シニアクラブ
	② 10月15日（金）13:00～	Nスポ健康ステーション
千歳市	① 10月18日（月）13:30	稲穂町内会館
	② 10月22日（金）10:00～	長都駅前町内会館
	③ 10月22日（金）13:30～	公民館（大和1丁目町内会）

【事後評価（2月）の実施日程】

自治体名	日時	備考
名寄市	① 2月9日（水）10:00～	会場開催中止
	② 2月9日（水）13:00～	Nスポ健康ステーションにて実施
猿払村	① 2月21日（月）	会場開催中止
	② 2月25日（金）	
喜茂別町	2月22日（火）	会場開催中止
池田町	2月28日（月）	会場開催中止
千歳市	2月25日（金）	会場開催中止、

※「会場開催中止」とは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、運動機能評価と認知機能評価の実施は中止になったが、アンケート用紙による評価（基本チェックリスト、E-SAS、MNA）はアンケート用紙を対象高齢者の自宅に郵送し、回収するように実施したという意味である。

### 3.3.2 認知機能評価の結果

認知機能の評価は、WEB版のう KNOW（認知機能検査）を使用し、具体的には、下記4種類の練習問題を通して実施した。

#### ①脳の反応速度チェック



The interface shows a central card with a red and black illustration. To the left is a button labeled 'いいえ' (No) and to the right is a button labeled 'はい' (Yes). A pink callout box points to the top of the card with the text '最初は、ここに指示が出ます' (Initially, the instruction appears here).

難易度：☆☆☆ 目安時間：3分  
カードがめくられたら、「はい」を押します。  
※早めのテンポで進んでいきます。

#### ②注意カチェック



The interface shows a central card with a red and white striped illustration. To the left is a button labeled 'いいえ' (No) and to the right is a button labeled 'はい' (Yes). A pink callout box points to the top of the card with the text '最初は、ここに指示が出ます' (Initially, the instruction appears here).

難易度：☆☆☆ 目安時間：3分  
カードが赤の場合は「はい」、黒の場合は「いいえ」を押します。  
※早めのテンポで進んでいきます。

#### ③視覚学習チェック



The interface shows a central card with a red heart pattern. To the left is a button labeled 'いいえ' (No) and to the right is a button labeled 'はい' (Yes). A pink callout box points to the top of the card with the text '最初は、ここに指示が出ます' (Initially, the instruction appears here).

難易度：★★★ 目安時間：6分  
見たことのあるカードが出たら「はい」を、初めて見るカードが出たら「いいえ」を押します。  
(考えすぎず直感で選択しましょう)  
※最初に出るカードは、初めて出るカードなので「いいえ」からスタートです。  
※このチェックは、少し長いですが、最後まで実施しましょう。

#### ④記憶カチェック



The interface shows a central card with a black and white illustration. To the left is a button labeled 'いいえ' (No) and to the right is a button labeled 'はい' (Yes). A pink callout box points to the top of the card with the text '最初は、ここに指示が出ます' (Initially, the instruction appears here).

難易度：★★☆ 目安時間：3分  
1つ前のカードと同じカードが続いたら「はい」を、それ以外のカードが出たら「いいえ」を押します。  
※最初に出るカードは、初めて出るカードなので「いいえ」からスタートです。

評価は、同年代と比較した場合の現在のブレインパフォーマンス（脳の健康度）が結果として表示され、具体的に「集中力」（ランク＋スコア）、「記憶力」（ランク＋スコア）、「脳年齢」という3つのデータで表示されていた。

- 集中カスコア：**  
ブレインパフォーマンスに関する**反応速度や注意力**を総合的に評価したスコアです。
- 記憶カスコア：**  
ブレインパフォーマンスに関する**視覚学習や記憶**を総合的に評価したスコアです。



**BPIは体調によって変動しやすい指標になります。**  
**疾病の予防や診断を目的としたものではなく、健康意識を高めるために行っていただくことを目的としています。**

#### 結果について

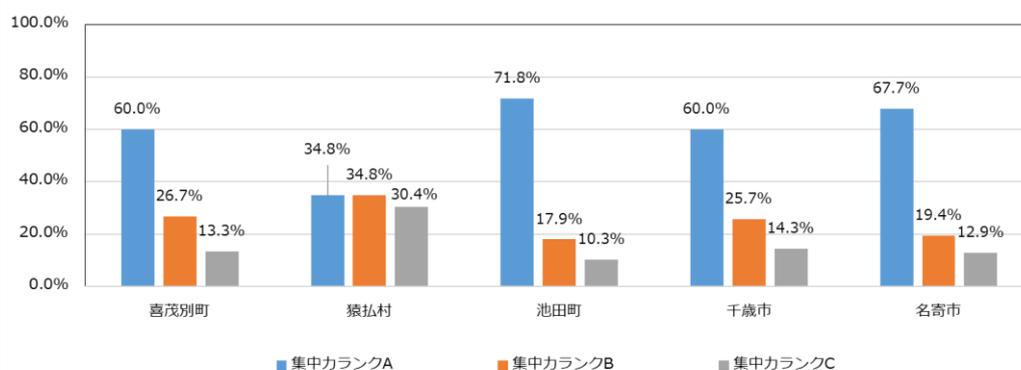
ブレインパフォーマンスの集中カスコア・記憶カスコアそれぞれがA・B・Cで表示されます（A：正常な状態、B：ボーダーライン、C：維持向上のための活動を取り入れましょう）。  
 また、集中カスコア・記憶カスコア0～50のBPI（Brain Performance Index：脳の健康度を示す指標）スコアが表示されます。

\*BPI 20.0～50.0：A BPI 15.0～19.9：B BPI 0～14.9：C

事前測定会（10月）において、各自治体の対象高齢者に実施した認知機能の結果は下記の通り。

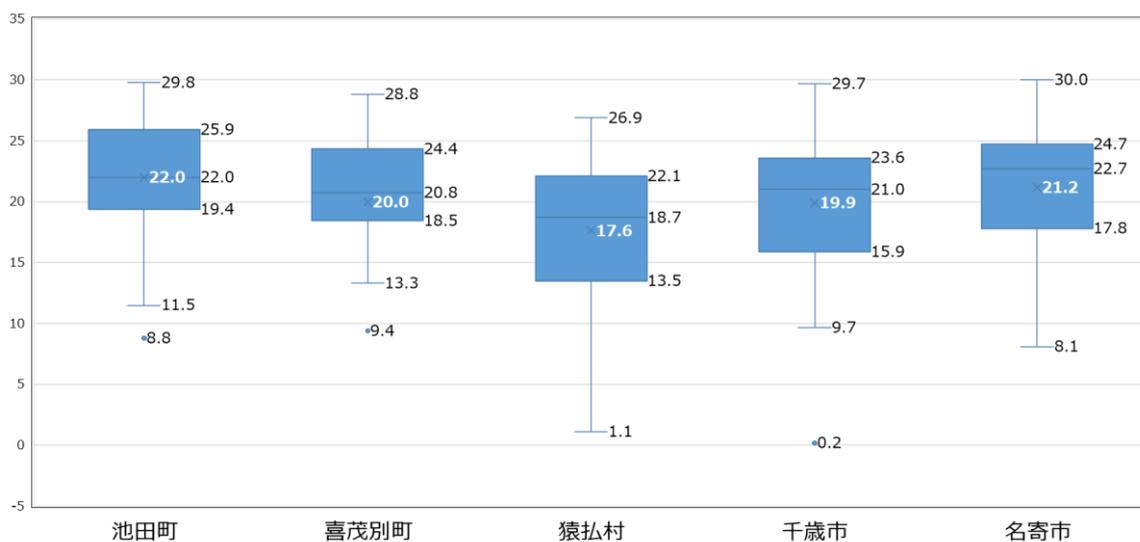
「集中力ランク」について、「A（正常な状態）」は池田町の割合が71.8%と最も高くなっており、次いで名寄市が67.7%、喜茂別町と千歳市がともに60.0%と続いている。一方、「C（維持向上のための活動を取り入れましょう）」は、猿払村の割合が30.4%と最も高くなっている。

集中力ランクの割合（自治体別）



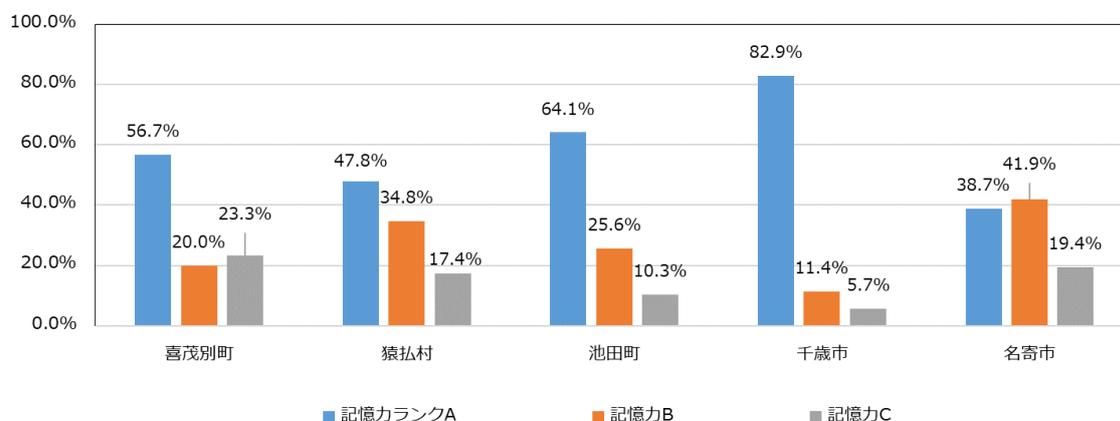
「集中カスコア」について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、池田町が19.4～25.9と最も高くなっており、次いで名寄市が17.8～24.7、喜茂別町が18.5～24.4と続いている。最小値と最大値の差は、猿払村が最も大きく、喜茂別町が最も小さくなっている。平均値は、池田町が22.0と最も高く、猿払村が17.6と最も小さくなっている。

集中カスコア（自治体別）

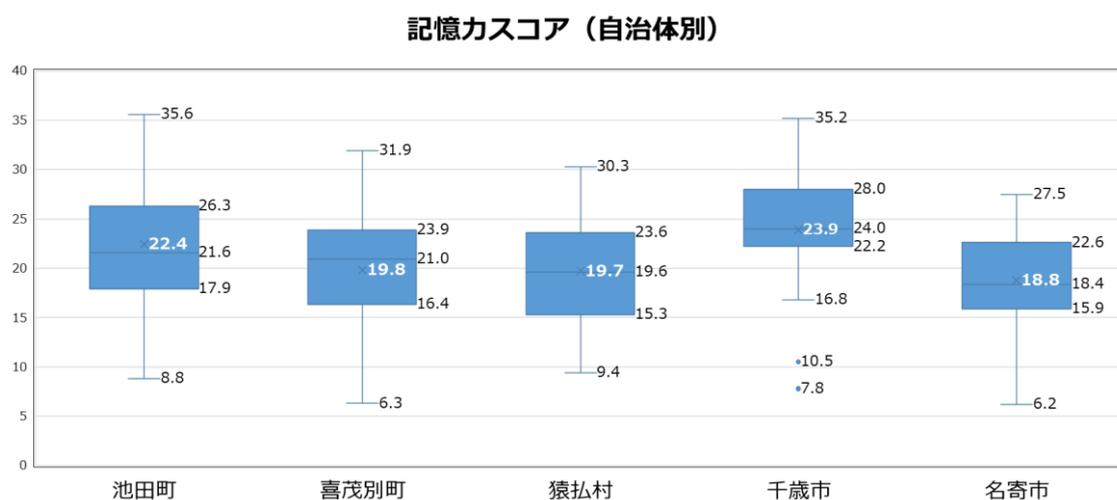


「記憶カランク」について、「A（正常な状態）」は千歳市の割合が82.9%と最も高くなっており、次いで池田町が64.1%、喜茂別町が56.7%と続いている。一方、「C（維持向上のための活動を取り入れましょう）」は、喜茂別町の割合が23.3%と最も高くなっている。

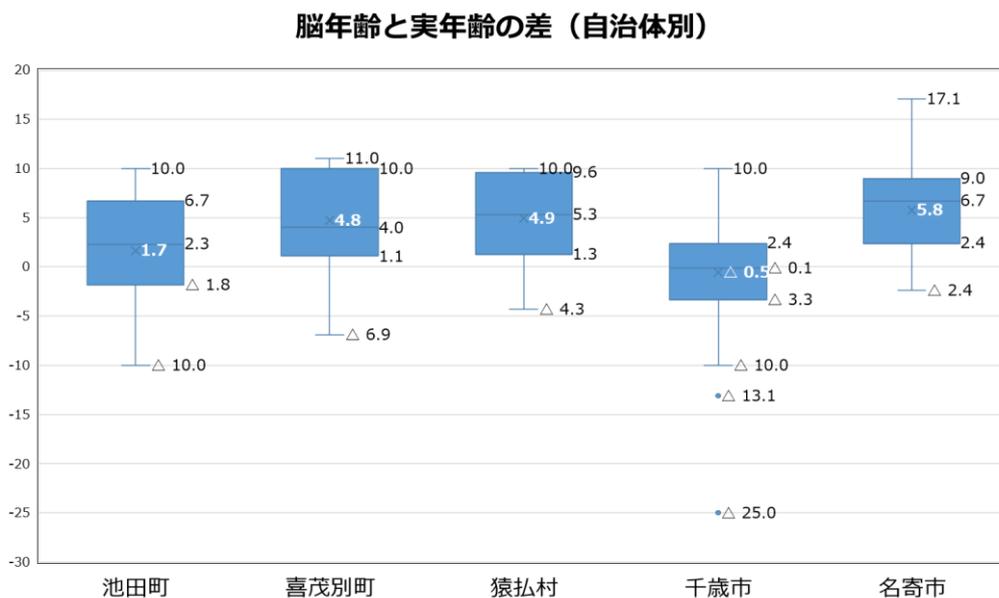
記憶カランクの割合（自治体別）



「記憶力スコア」について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、千歳市が 22.2～28.0 と最も高くなっており、次いで池田町が 17.9～26.3 と続いている。最小値と最大値の差は、池田町が最も大きく、千歳市が最も小さくなっている。平均値は、千歳市が 23.9 と最も高く、名寄市が 18.8 と最も小さくなっている。



脳年齢と実年齢の差（脳年齢－実年齢）について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、千歳市が△3.3～2.4歳と最も小さくなっており、次いで池田町が△1.8～6.7歳と続いている。最小値と最大値の差は、千歳市が最も大きく、猿払村が最も小さくなっている。平均値は、千歳市が△0.5歳と最も小さく、名寄市が5.8歳と最も大きくなっている。

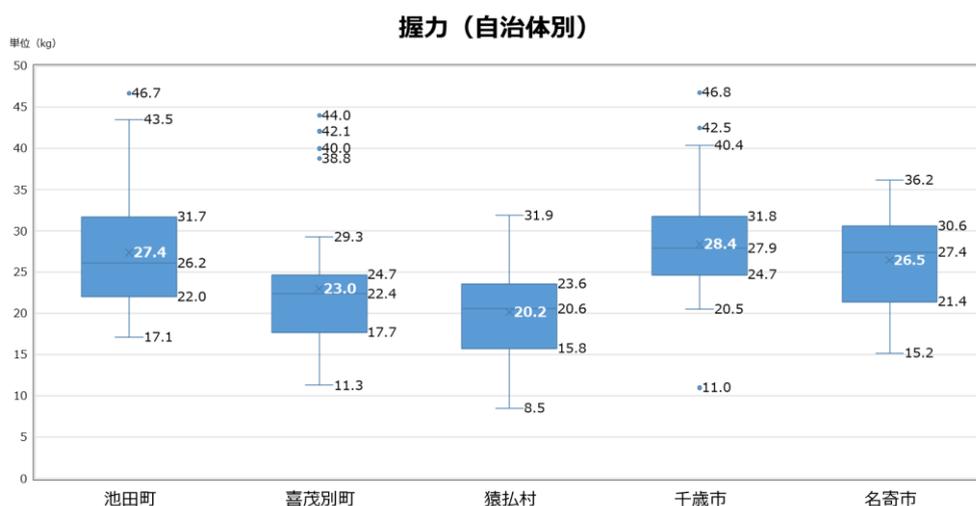


※脳年齢と実年齢の差=脳年齢－実年齢

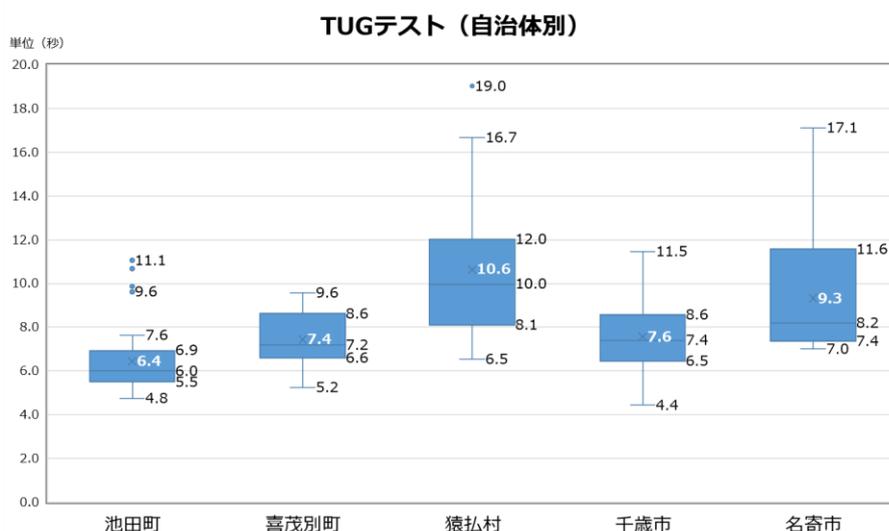
### 3.3.3 運動機能評価の結果

事前測定会（10月）において、各自治体の対象高齢者を実施した運動機能評価の結果は下記の通り。

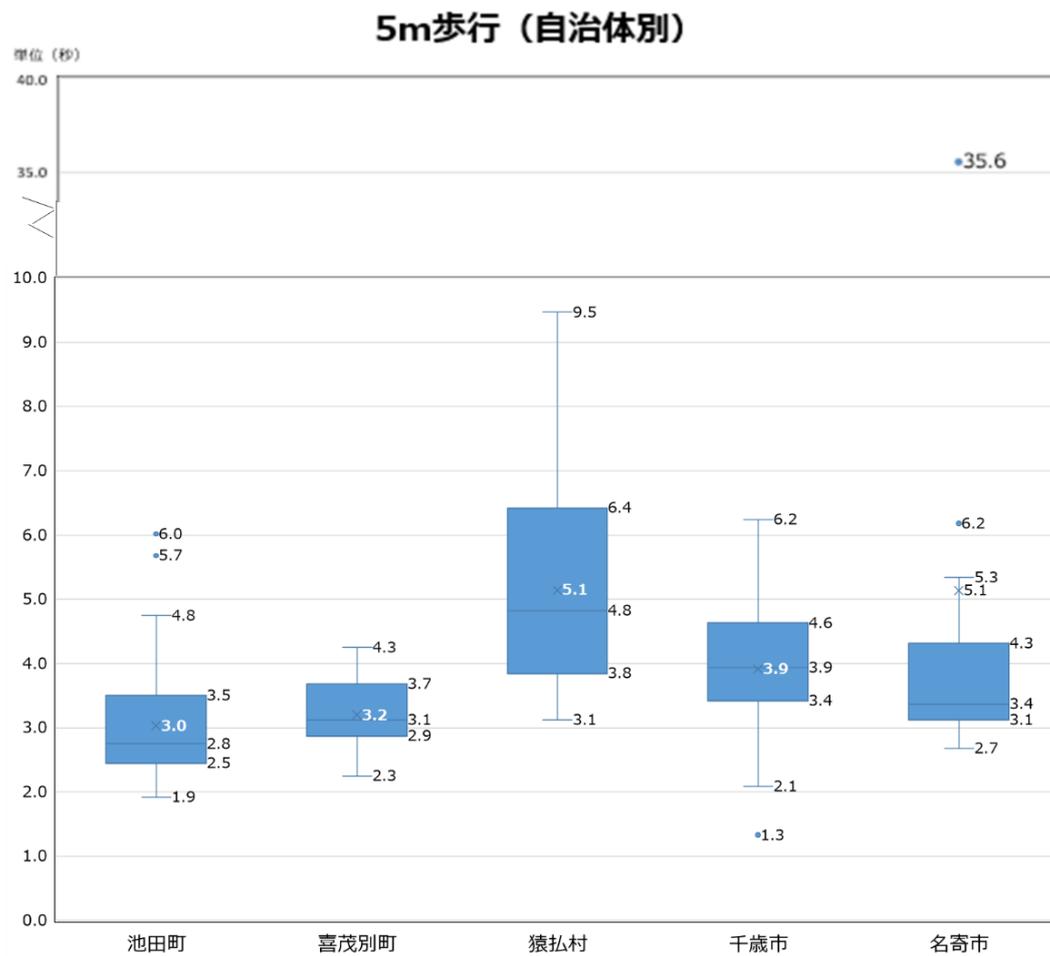
握力について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、千歳市が24.7～31.8 kgと最も高くなっており、次いで池田町が22.0～31.7 kgと続いている。最小値と最大値の差は、池田町が最も大きく、喜茂別町が最も小さくなっている。平均値は、千歳市が28.4 kgと最も高く、猿払村が20.2 kgと最も小さくなっている。



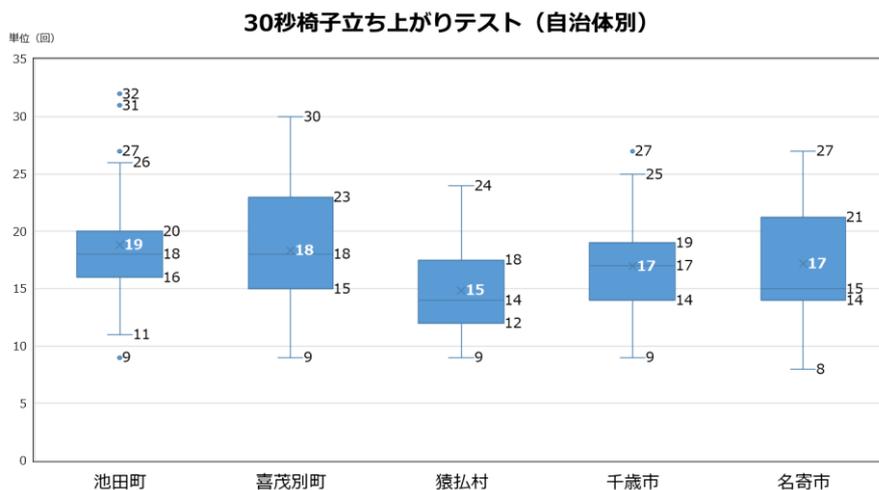
TUGテストについて、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、猿払村が8.1～12.0秒と最も高くなっており、次いで名寄市が7.4～11.6秒と続いている。最小値と最大値の差は、猿払村が最も大きく、池田町が最も小さくなっている。平均値は、猿払村が10.6秒と最も高く、池田町が6.4秒と最も小さくなっている。



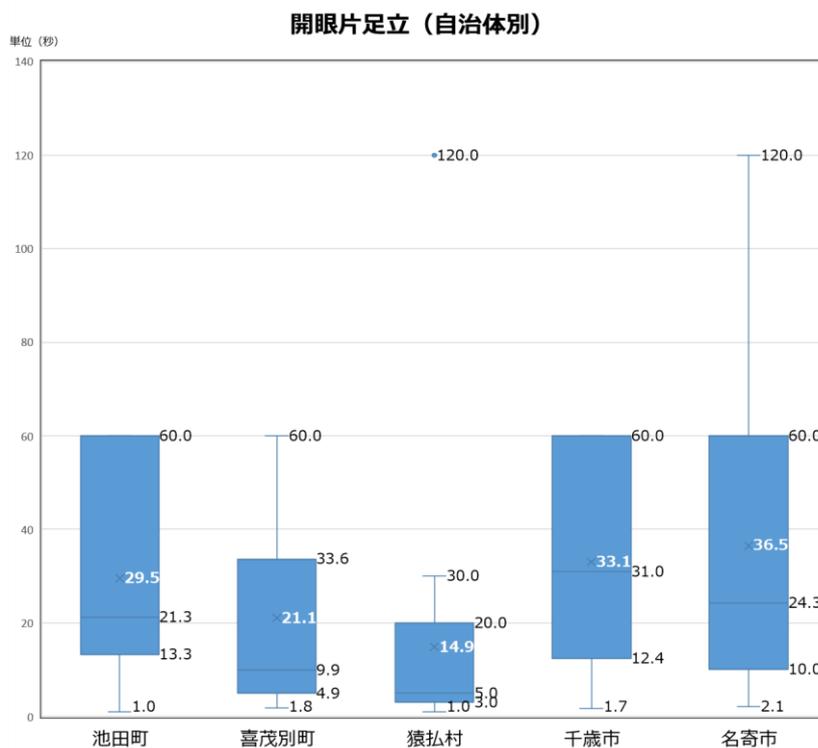
5m 歩行について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、猿払村が 3.8～6.4 秒と最も高くなっており、次いで千歳市が 3.4～4.6 秒と続いている。最小値と最大値の差は、猿払村が最も大きく、喜茂別町が最も小さくなっている。中央値は、猿払村が 4.8 秒と最も高く、池田町が 2.8 秒と最も小さくなっている。



30秒椅子立ち上がりテストについて、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、猿払村が15～23回と最も高くなっており、次いで名寄市が14～21回と続いている。最小値と最大値の差は、喜茂別町が最も大きく、池田町と猿払村が最も小さくなっている。平均値は、池田町が19回と最も高く、猿払村が15回と最も小さくなっている。



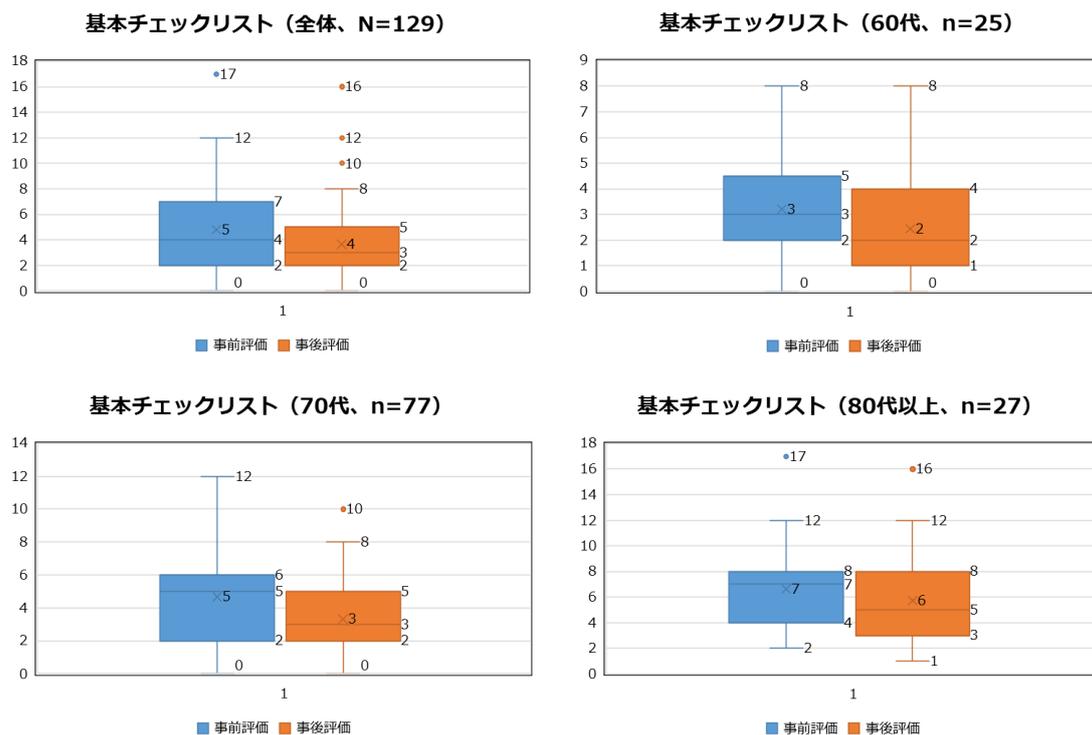
開眼片足立について、中央値を中心とする全体の約半数のデータは、池田町、千歳市、名寄市の3か所がほぼ同じく高い水準を持っている。最小値と最大値の差は、名寄市が最も大きく、猿払村が最も小さくなっている。中央値は、千歳市が31.0秒と最も高く、猿払村が5.0秒と最も小さくなっている。



### 3.3.4 基本チェックリストの評価結果

事前測定会（10月に会場にて実施）と事後測定会（2月にアンケート調査票の郵送&回収により実施）において、各自治体の対象高齢者に実施した基本チェックリストの結果について、事前事後の両方のデータを取れた対象高齢者（129名）の結果は、下記の通り。

No.1～20までの20項目について、年齢と関係なく、該当項目数は、事前より、事後の該当数が減少した。具体的には、対象高齢者全体は、中央値を中心とする全体の約半数のデータが事前（2～7項目）から事後（2～5項目）に減少し、平均値が5項目から4項目に減少した。60代の対象高齢者は、中央値を中心とする全体の約半数のデータが事前（2～5項目）から事後（1～4項目）に減少し、平均値が3項目から2項目に減少した。70代の対象高齢者は、中央値を中心とする全体の約半数のデータが事前（2～6項目）から事後（2～5項目）に減少し、平均値が5項目から3項目に減少した。80代以上の対象高齢者は、中央値を中心とする全体の約半数のデータが事前（4～8項目）から事後（3～8項目）に減少し、平均値が7項目から6項目に減少した。



全体から見れば、No. 1～20 までの 20 項目のうち、10 項目以上該当した人（以下、「事業対象者」という）は、事前の 14 名から 5 名に減少した。各項目別の減少率は、閉じこもり者が 72.4%（58 名→16 名）と最も高く、次いで認知機能低下者が 46.3%（54 名→29 名）、口腔機能低下者が 21.2%（33 名→26 名）、運動機能低下者が 16.0%（25 名→21 名）と続いている。栄養状態に変化はなし、うつ病の可能性のある人は 1 名増加した。

自治体別から見れば、事業対象者の減少率は、池田町と名寄市ともに 100%となっている。猿払村は認知機能や閉じこもり、口腔機能における改善があり、うつ病の可能性が増え、運動機能の低下もあった。喜茂別町は、閉じこもりや認知機能、運動機能、うつ病における改善があった。池田町は、栄養状態が保持され、それ以外の項目にすべて改善があった。千歳市は、閉じこもりや認知機能、運動機能における改善があったが、口腔機能とうつ病におけるレベルの低下があった。名寄市はうつ病の可能性が増えたが、栄養状態の保持、閉じこもりや運動機能、認知機能、口腔機能における改善があった。

		事業対象者	運動機能低下	低栄養状態	口腔機能低下	閉じこもり	認知機能低下	うつ病の可能性
全自治体(N=129)	事前	14名	25名	0名	33名	58名	54名	32名
	事後	5名	21名	0名	26名	16名	29名	33名
	減少率	<b>64.3%</b>	<b>16.0%</b>	-	<b>21.2%</b>	<b>72.4%</b>	<b>46.3%</b>	<b>△3.1%</b>
猿払村(n=22)	事前	5名	8名	0名	8名	7名	7名	4名
	事後	4名	12名	0名	7名	5名	4名	7名
	減少率	<b>20.0%</b>	<b>△50.0%</b>	-	<b>12.5%</b>	<b>28.6%</b>	<b>42.9%</b>	<b>△75.0%</b>
喜茂別町(n=21)	事前	0名	3名	0名	7名	11名	14名	8名
	事後	0名	2名	0名	7名	2名	4名	6名
	減少率	-	<b>33.3%</b>	-	-	<b>81.8%</b>	<b>71.4%</b>	<b>25.0%</b>
池田町(n=35)	事前	4名	8名	0名	10名	20名	12名	10名
	事後	0名	4名	0名	5名	6名	8名	7名
	減少率	<b>100.0%</b>	<b>50.0%</b>	-	<b>50.0%</b>	<b>70.0%</b>	<b>33.3%</b>	<b>30.0%</b>
千歳市(n=28)	事前	3名	3名	0名	3名	12名	9名	7名
	事後	1名	2名	0名	4名	1名	6名	8名
	減少率	<b>66.7%</b>	<b>33.3%</b>	-	<b>△33.3%</b>	<b>91.7%</b>	<b>33.3%</b>	<b>△14.3%</b>
名寄市(n=23)	事前	2名	3名	0名	5名	8名	12名	3名
	事後	0名	1名	0名	3名	2名	7名	5名
	減少率	<b>100.0%</b>	<b>66.7%</b>	-	<b>40.0%</b>	<b>75.0%</b>	<b>41.7%</b>	<b>△66.7%</b>

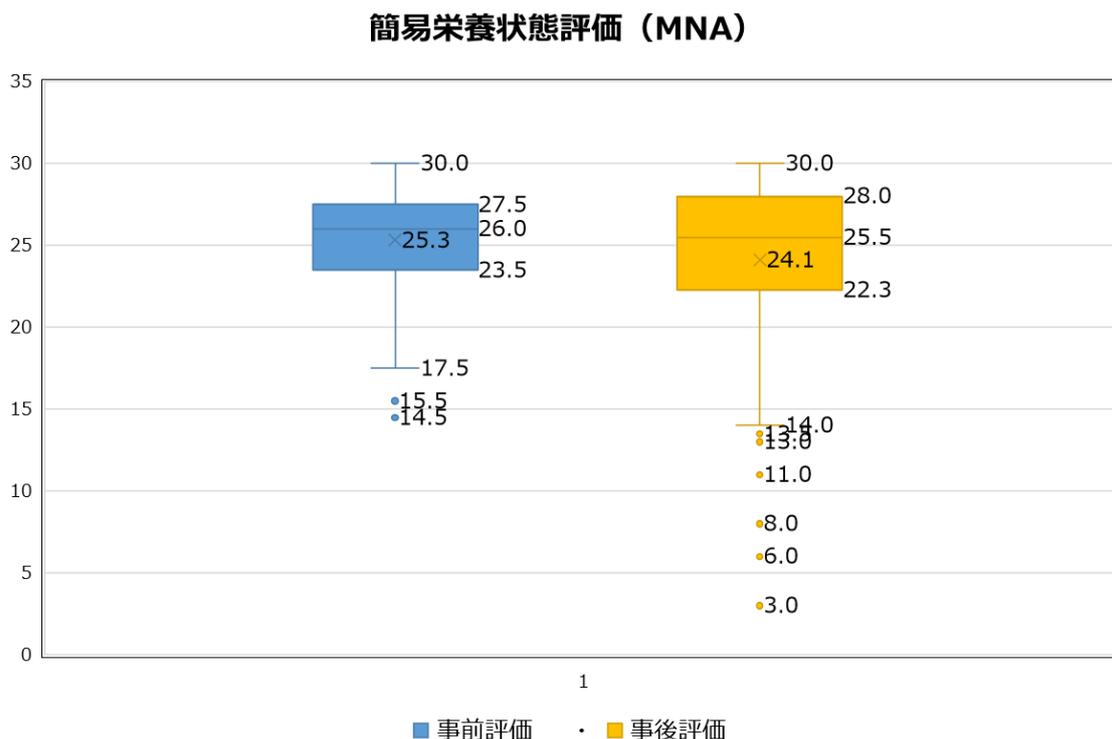
年代別から見れば、事業対象者の減少率は70代が88.9%と最も高くなっている。また、80代以上は認知機能や閉じこもり、口腔機能における改善、60代は閉じこもりや認知機能における改善が見られた。

		事業対象者	運動機能低下	低栄養状態	口腔機能低下	閉じこもり	認知機能低下	うつ病の可能性
全自治体(N=129)	事前	14名	25名	0名	33名	58名	54名	32名
	事後	5名	21名	0名	26名	16名	29名	33名
	減少率	<b>64.3%</b>	<b>16.0%</b>	-	<b>21.2%</b>	<b>72.4%</b>	<b>46.3%</b>	<b>△3.1%</b>
60代(n=25)	事前	0名	1名	0名	1名	15名	8名	4名
	事後	0名	3名	0名	2名	1名	2名	4名
	減少率	-	<b>△200.0%</b>	-	<b>△100.0%</b>	<b>93.3%</b>	<b>75.0%</b>	-
70代(n=77)	事前	9名	14名	0名	22名	34名	33名	21名
	事後	1名	8名	0名	17名	9名	21名	20名
	減少率	<b>88.9%</b>	<b>42.9%</b>	-	<b>22.7%</b>	<b>73.5%</b>	<b>36.4%</b>	<b>4.8%</b>
80代以上(n=27)	事前	5名	10名	0名	10名	9名	13名	7名
	事後	4名	10名	0名	7名	6名	6名	9名
	減少率	<b>20.0%</b>	-	-	<b>30.0%</b>	<b>33.3%</b>	<b>53.8%</b>	<b>△28.6%</b>

また、同一人物の事前事後の評価結果を見ると、事前より、事後の該当項目数が減少あるいは保持した人の割合について、No. 1～20までの20項目においては81%、運動器においては73%、栄養においては96%、口腔においては86%、閉じこもりにおいては94%、認知症においては92%、うつにおいては82%となっている。

### 3.3.5 栄養状態の評価結果

簡易栄養状態評価表（MNA）の事前事後の評価値について、全体から見ると、栄養状態の改善が見られなかった。事前より、事後の評価値はより分散されるようになり、中央値と平均値がやや低下している。



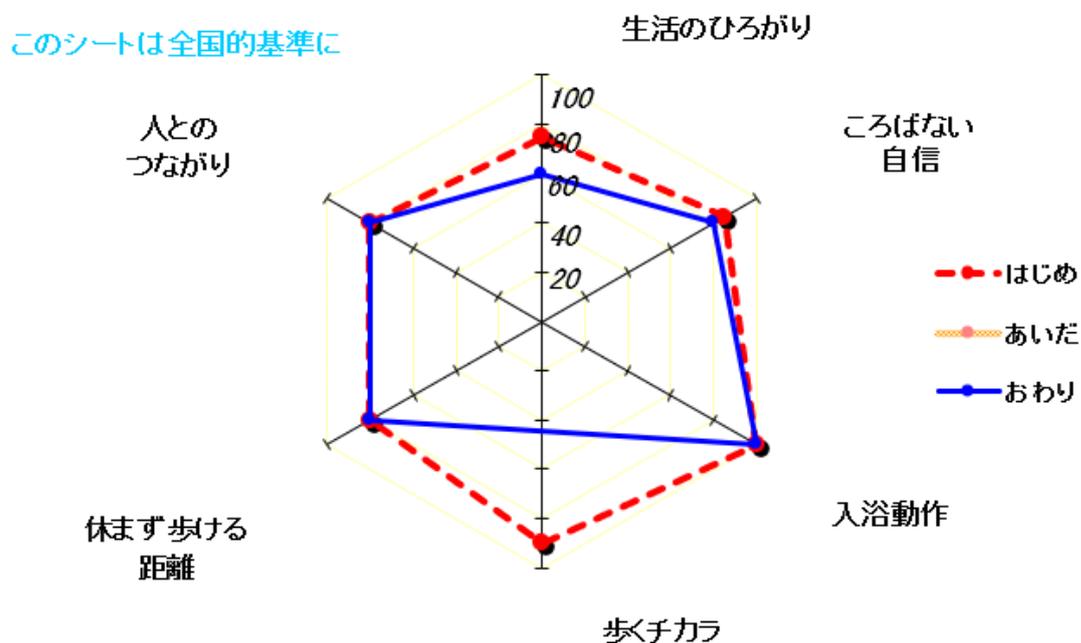
事前事後両方のデータを揃えた人（120名）の評価値を見ると、事前より、事後の点数は非減少した人の割合が、52.5%となっている。具体的には、「栄養状態良好」は事前の95名から事後の81名に減少し、「低栄養のおそれあり」は事前の23名から事後の28名に、「低栄養」は事前の2名から事後の11名に増加した。

状態	事前評価の結果	事後評価の結果	変化
栄養状態良好	95名	81名	悪化（14名）
低栄養のおそれあり	23名	28名	悪化（5名）
低栄養	2名	11名	悪化（9名）

### 3.3.6 E-SAS の評価結果

事前事後両方のデータを揃えた人（78 名）の評価値を見ると、事前と事後の評価値の平均値を使い、E-SAS 6 指標レーダーチャート得点を表示すると、「入浴動作」や「休まず歩ける距離」、「人とのつながり」には増減がなく、「生活のひろがり」に 9 点、「ころばない自信」に 1 点の減少があった。

項目	事前評価平均値	事後評価平均値	変化
生活のひろがり	80 点	71 点	悪化（9 点）
ころばない自信	37 点	36 点	悪化（1 点）
入浴動作	10 点	10 点	無変化
歩くチカラ	4.5 秒	※会場開催中止により、測定ができなかった。	
休まず歩ける距離	5 点	5 点	無変化
人とのつながり	15 点	15 点	無変化



※赤の曲線は事前測定値、青の直線は事後測定値である。

### 3.4 会議の開催

各自治体の進行状況を共有し、本事業を円滑に遂行しかつ効果的なものにするため、北海道保健福祉部や振興局、モデル市町村等から構成される企画会議を2回、評価会議を1回開催した。

#### 3.4.1 第1回企画会議

##### 【概要】

1. 日 時：令和3年8月3日（火） 16:00～17:30
2. 場 所：オンライン開催（Zoom）
3. 次 第
  - （1）開会
  - （2）事業の進捗状況
    - ① 対象となる通いの場の検討・確定状況
    - ② 月2回程度の通いの場の企画準備の状況
    - ③ 高齢者が使いやすいインターフェース開発や利用できるコンテンツの検討状況
    - ④ 事業成果の評価・分析の考え方（生活機能評価）
  - （3）質疑応答・意見交換
  - （4）今後のスケジュールと各自治体への依頼事項
  - （5）閉会

第1回企画会議で、事務局からの報告が主要となり、各自治体からの質問等はなかった。

#### 3.4.2 第2回企画会議

##### 【概要】

1. 日 時：令和3年12月1日（水） 16:00～17:30
2. 場 所：オンライン開催（Zoom）
3. 次 第
  - （1）開会
  - （2）事業を進める上での問題点・課題の共有と対応策
    - ① 月2回の通いの場の運営実績
    - ② 高齢者のタブレット利用状況
    - ③ 事業を進める上での問題点・課題

【質疑応答・意見交換】

(3) 今後のスケジュールと各自治体への依頼事項

【事務局からの説明】

- ① 12月以降の通いの場の運営について
- ② 繋がるツール「KizunaWEB」の利用
- ③ その他

【質疑応答・意見交換】

(4) 閉会

タブレット端末の利用トラブルや利用頻度の低い対象高齢者への促進について、各自治体から下記の意見をいただいた。

自治体名	コメント
猿払村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業開始後、入院した人もいたり、仕事の関係でタブレットに触れなかったりするケースもある。</li> <li>・ 電話で解決できないトラブルは高齢者の自宅へ訪問するよう対応した（往復1時間）。</li> </ul>
池田町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機内モードにしてしまい、ネットがつながらないケースが多い。メニューから隠したり、集合した際に教示したりしている。</li> <li>・ アプリの経験者が未経験の高齢者に教えたりするようなこともあった。</li> <li>・ Zoom 参加には Google カレンダーにアドレスを貼り付けて促進につなげている。</li> <li>・ オンラインで会っていた人とリアルで対面したときに、喜び合う姿も見られた。</li> <li>・ 7インチのタブレットは持ち運びが良い。</li> </ul>
千歳市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電話相談はほとんどなく、月2回の通いの場がトラブル解決の場となっている。</li> <li>・ LINE を使用し、お互いに教えあうこともやっている。</li> </ul>
名寄市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通いの場関係者が常駐している場所は、トラブルへの対応ができているが、月2回しか集まらない場所は、トラブルの解決が難しい。</li> </ul>
喜茂別町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電話ではトラブル解決ができないので、自宅訪問で対応するのがほとんど（往復10分程度）。</li> <li>・ 問い合わせは最近減ってはいるが固定してきている。同メンバーからの質問が多い。同様な不具合の対応になってきている。</li> <li>・ 利用率の低い人はちょうど自分のスマホや iPad 等を購入してしまい、事業用のタブレットに触れなくなったケースもあった。</li> </ul>

12 月以降のコンテンツの設計について、各自治体からバーチャル旅行や高齢者でも設定できるようなコンテンツ、料理教室等を実施してほしいという声があった。

最後に、日本アクティビティ協会の川崎氏から、「高齢者に垣根を低くするコンテンツの設定」や「他世代と繋がる内容の設定」、「ショッピングモールでの体操の実施」等の意見をいただいた。

### 3.4.3 評価会議

#### 【概要】

- |  |
|--|
| 1. 日 時：令和 4 年 3 月 18 日（金） 15：00～16：30  |
| 2. 場 所：オンライン開催（Zoom）                   |
| 3. 次 第                                 |
| （1）開会                                  |
| （2）事業実施結果の報告                           |
| 【事務局からの説明】                             |
| ① 各通いの場の活動                             |
| ② タブレット端末の利用満足度に関するアンケート調査の結果          |
| ③ 今年度の成果・課題                            |
| ④ 次年度の展開について                           |
| （3）「高齢者通いの場 ICT 活用推進モデル事業実施アンケート」結果の共有 |
| （4）意見交換                                |
| （4）閉会                                  |

今年度の成果と課題について、各自治体から下記のコメントをいただいた。

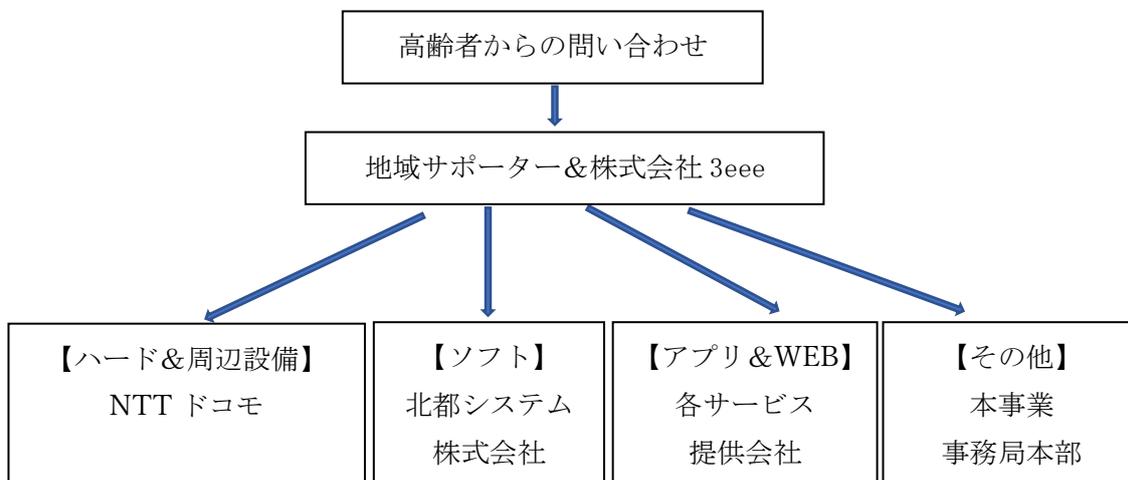
自治体名	コメント
池田町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者から概ね参加して良かったとの評価があり、使い続けたい意見もあった。この事業をこのまま次年度へ移行は難しく、工夫が必要である。</li> <li>・ 高齢者でも若い人は既に利用しており、10 年後には色々な展開ができる。その間どうやって繋いでいくかが課題である。</li> <li>・ ふまねっと、脳トレ、KUMON とは池田町が別途打ち合わせをし、次年度へ繋げていく。新しい友達もでき、他の市町村との交流の機会がほしい。</li> <li>・ リテラシーの高い人を養成し、町民同士でやっていくと職員の負担も減る。</li> <li>・ 高齢者と担当職員との信頼もできた。</li> </ul>

自治体名	コメント
千歳市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使える人と使えない人で分かれた。</li> <li>・ 通信インフラがあれば、LINE を使い千歳市からの情報を伝えたり、コミュニケーションしたりすることができることがわかった。</li> <li>・ 個人間での交流は難しく、次年度は町と住人、会場と会場をつなぐ ICT を活用していきたい。</li> </ul>
猿払村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均年齢が高く、要支援や介護認定者も参加した。若い人は大丈夫だが、90 歳代の参加者は職員が関わることで乗り越えた。</li> <li>・ 運動コンテンツはフレイル予防につながった。</li> <li>・ 自分の体調不良や病気をネットで調べる人もおり、健康意識の向上につながった。</li> <li>・ 孫との写真交換等、できることが増えている。スマホやタブレットへの抵抗は弱まった。</li> <li>・ ICT は子供には力を入れているが、今後は村の中で高齢者への力も入れることを検討したい。</li> </ul>
名寄市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リアルとオンラインのセットで使えていると感じるが、リアル参加していない人には難しい。</li> <li>・ 機械アレルギーがあった高齢者に貸与してみたところ、空き時間はほぼ脳トレをやるようになり、仲間同士で使用方法を教えあうなどの嬉しい行動変容もあった。</li> </ul>
喜茂別町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、フォローをしている職員の私たちが楽しかった。職員の IT リテラシーも UP し、高齢者とともに勉強することができた。</li> <li>・ 使えない人、使わない人に対しては時間が少なかったと感じる。</li> <li>・ どんな健康状態でも使えるツールであることがわかった。</li> <li>・ 介護予防にとらわれず、町として何ができるか、ICT に限らず、高齢者のニーズの把握は必要と気付く良い機会となった。</li> </ul>

また、日本アクティビティ協会の川崎氏から、「ICT デジタルオンラインを自分ごと化することが大事」や「リアルとバーチャル両方が必要」、「デジタルサポートの指導者の養成が必要」等のコメントをいただいた。

### 3.5 コーディネーターの対応状況

対象高齢者からの端末に関する問い合わせは、下記のように対応した。



また、対象高齢者からの問い合わせの内容を整理すると、主に下記の通り。

#### 【ハード&周辺設備について】

No.	事象	原因	対応内容
1	ミラキャストが繋がらない	タブレットのスリープモード	何度かやり直したうちに、解決した
2	タブレットがテレビに映らない	マニュアルと異なる方法で接続	マニュアルに従うよう説明した
3	テレビとタブレットのつなぎ方がわからない	・操作方法が難しい ・やり方を忘れていた	・訪問時直接伝えた ・接続方法の録画を取ってもらった
4	ミラキャストがすぐ切断	電波の不安定	端末とミラキャストを近づけることで安定した
5	工場初期化モード	システムアップデート途中キャンセル	事務局が回収し、再設定した
6	・再起動の画面がいつもと違う ・キーボードのサイズがいつもと違う	タブレットのアップデートによる更新	キーボードサイズ変更方法を本人に伝えた

【WEB について】

No.	事象	原因	対応内容
1	カラオケのログインができなくなった（ログインするとマイページに飛ぶ）	ログイン情報が保持された	メーカー内部確認中
2	カラオケログインで ID と PASS が出でこない	何かのエラー	端末再起動で解決した

【アプリについて】

No.	事象	原因	対応内容
1	Easiit 消失	セーフモードを直そうと しているいろいろ押してしまった	マニュアル見ながら対応した
2	Easiit にログインできない	自動でログアウトされた	グーグルでログインを選択するように指導した
3	Easiit に不明なエラー	サーバー側の問題か	アプリをアンインストール後、再インストールした
4	Zoom で任意の方とつながりたい	通いの場、おともだちでは 任意の方とつながれない	Zoom アプリ内で連絡先を作成した
5	Zoom のミュートが解除できない	端末アップデートの影響	端末設定から Zoom でのマイク使用を許可した
6	ANATATO アプリインストール後、Zoom が起動しない	USER ID の登録情報の間違い	USER の ID を修正した
7	ANATATO アプリインストール後、ID と名前が一致しない	端末 ID (T0000) とデータベース ID (USER0000) は一致しない	一致しなくても問題ない旨を伝え、リストを作成した。
8	Shufoo! の起動、設定方法がわからない	操作方法の不慣れ	いろいろ触って設定できた
9	LINE のキーボードが日本語にならない	LINE の仕様	他アプリで日本語キーボードへ変更し、LINE を起動した
10	LINE でビデオが送れない	大容量	送信してしばらく待つよう伝えた

No.	事象	原因	対応内容
11	グループオンラインフィットネスの音量が聞こえない	使用者の理解度の影響	音量ボタンを押すように伝えた
12	グループオンラインフィットネスに入れない人がいた	Zoom ホストとしての参加方法の違い	担当者とテストしたうえ、理由を説明した

#### 【ソフトについて】

No.	事象	原因	対応内容
1	セーフモードになった	電源長押し	再起動でセーフモードを解除してからホームアプリを設定した
2	TalkBac モードが起動した	・ 端末の設定の変更 ・ 音量上げ下げの同時長押し	設定より修正した
3	my daiz 起動	不明	アイコン長押しでキャラをオフにした
4	機内モードになった	本人の誤作動	機内モードを解除した
5	ホーム画面がデフォルトの画面になった	長押し	マニュアル通りに元に戻した

以上の頻繁に起きているトラブルに対して、事務局と自治体担当者用の関係者マニュアルを作成した（詳細は資料4ご参照）。

## 3.6 参加者アンケート調査

### 3.6.1 アンケート調査の概要

#### 【調査の目的】

- ・ この調査は、高齢者通いの場 ICT モデル推進事業に参加した人を対象に、事業参加への満足度の把握を目的とする。

#### 【調査対象】

- ・ 対象高齢者 176 名

#### 【調査期間】

- ・ 令和 4 年 2 月 14 日～3 月 9 日

#### 【調査方法】

- ・ 郵送による調査票の配布・回収
- ・ Google フォームによる調査票の配布・回収

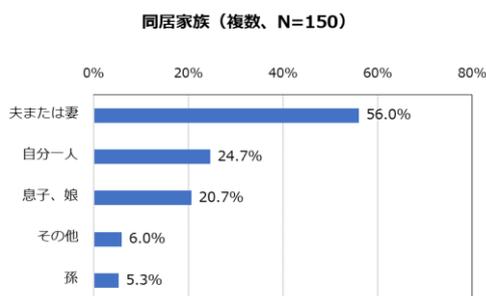
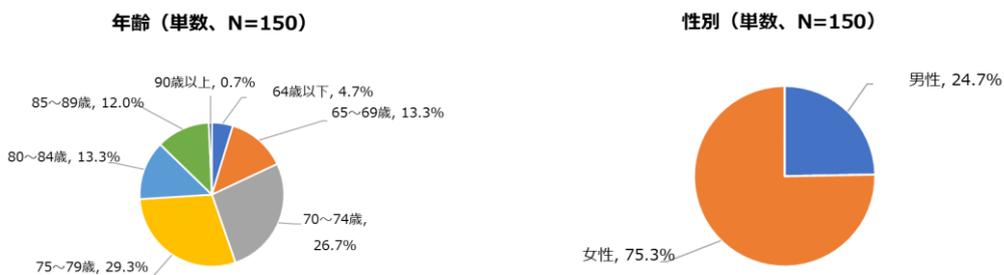
#### 【回収状況】

配布数	有効回収数	有効回収率
176 件	150 件	85.2%

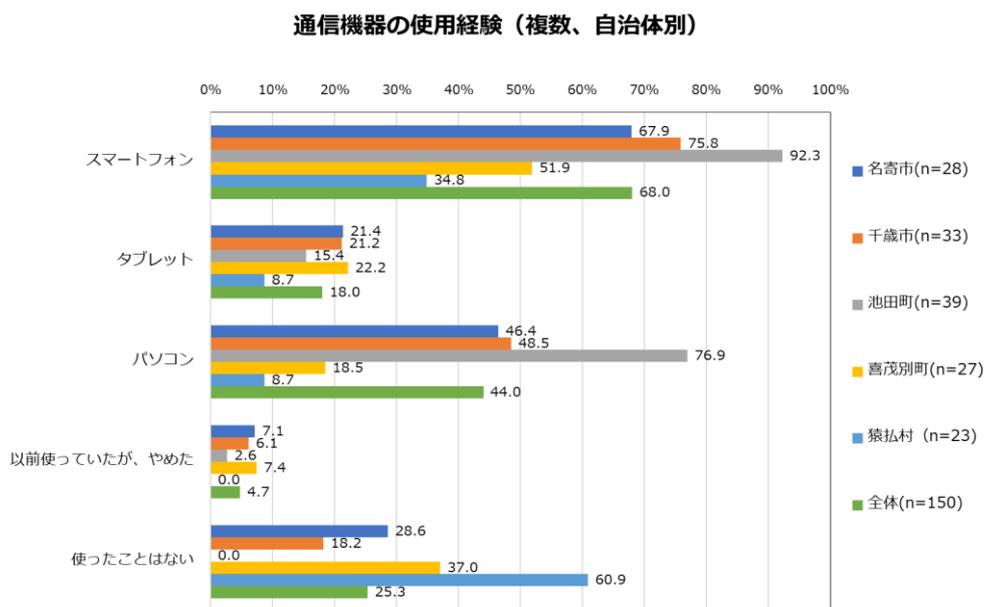
### 3.6.2 アンケート調査の結果

#### 【参加者の基本属性について】

参加者は、70代が半分以上で、女性が8割近く、独居が3割未満となっている。

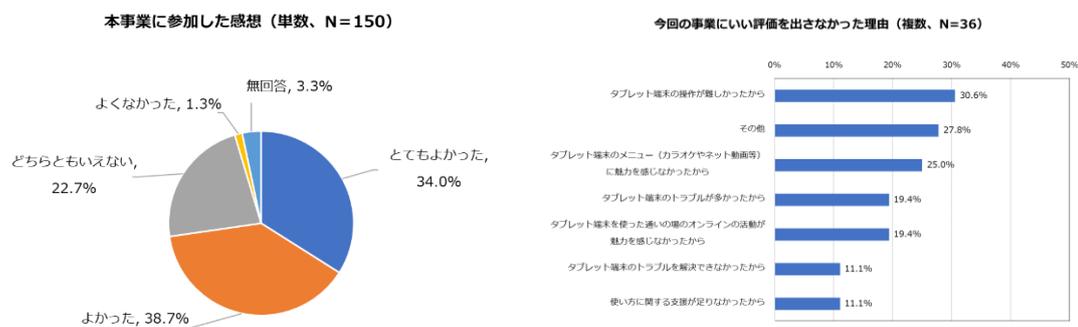


通信機器を使ったことのない人は、全体で 25.3%である。自治体別にみると、猿払村は 60.9%であるのに対して、池田町は 0%となっている。自治体による差が大きいと言える。

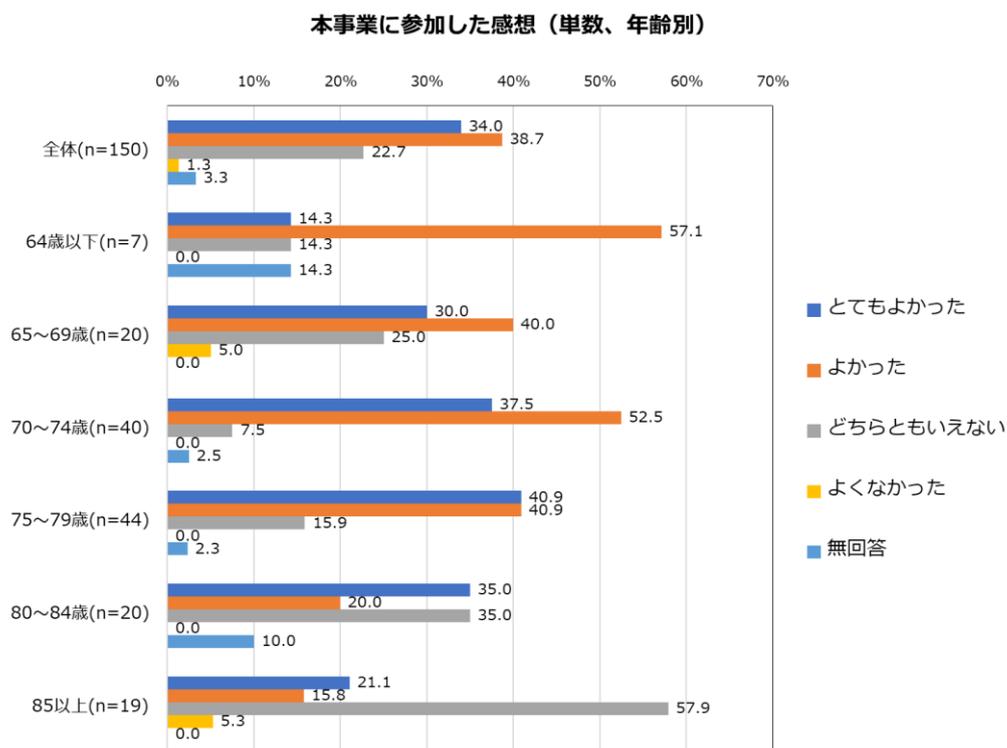


## 【本事業について】

事業に参加して「とてもよかった」「よかった」と思った人の割合は、72.7%となっている。よかったと評価をしなかった理由について、「端末の操作が難しかったから」が一番となっている。

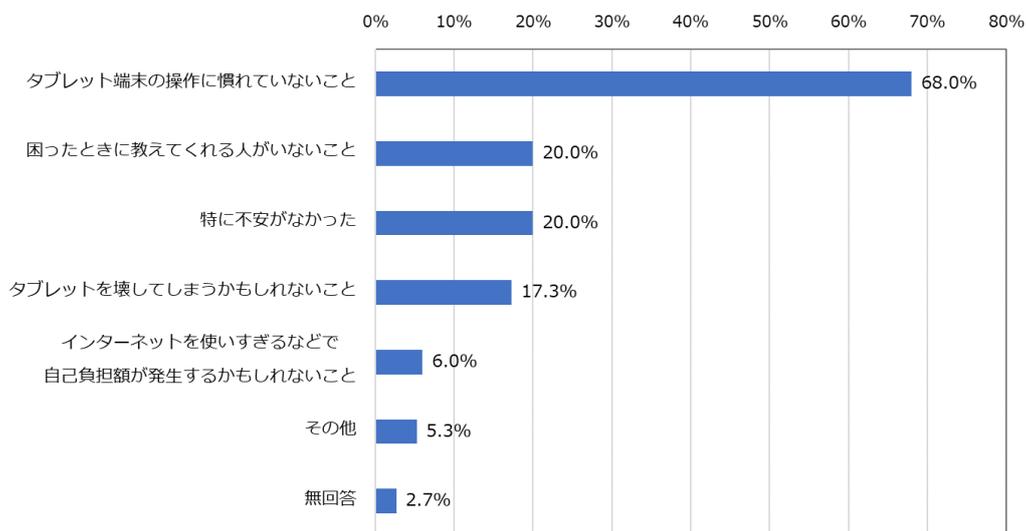


一方、年齢別から見れば、「とてもよかった」「よかった」と回答した割合は70代で8割以上と高かったが、80歳以上は「どちらともいえない」の割合が高くなっている。主な理由は、「タブレット端末の操作が難しかったから」や「タブレット端末のメニュー（カラオケやネット動画等）に魅力を感じなかったから」となっている。

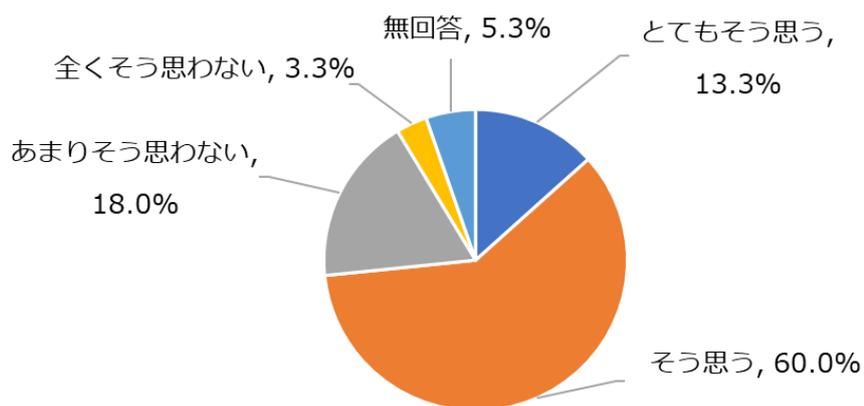


事業に参加する前から、不安があった人が8割である、一方、全体から見れば、配布以前と比べて、タブレット端末への不安が減少したと思う人は、73.3%となっている。

本事業に参加する前の不安（複数、N=150）



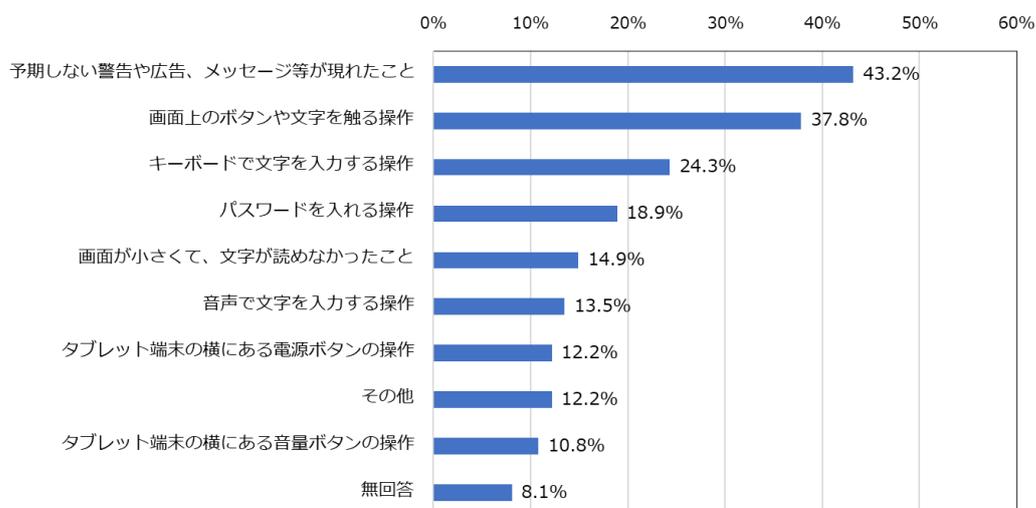
端末への不安が減少したか（単数、N=150）



### 【タブレット端末について】

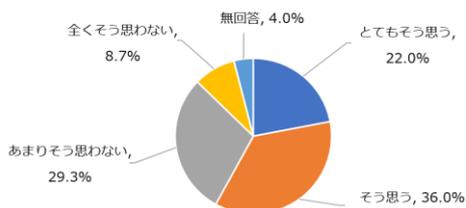
タブレット端末のサイズについて、「ちょうどよかった」と評価した人は 74.0%である。一方、タブレット端末の操作が難しかったと思う人は、半分程度である。具体的には、「予期しない警告や広告、メッセージ等が現れたこと」(43.2%)、「画面上のボタンや文字を触る操作」(37.8%)、「キーボードで文字を入力する操作」(24.3%)が上位に挙げられている。

どの操作が難しかったか（複数、N=74）

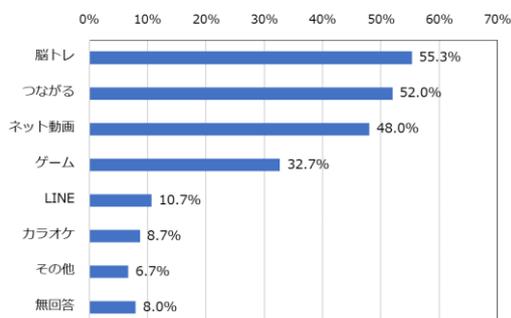


タブレット端末を使ってから、生活の楽しみが増えたと思う人は 58.0%である。具体的に、使って楽しかったメニューについて、「脳トレ」(55.3%)、「つながる」(52.0%)、「ネット動画」(48.0%)が上位に挙げられる。

生活の楽しみが増えたか（単数、N=150）



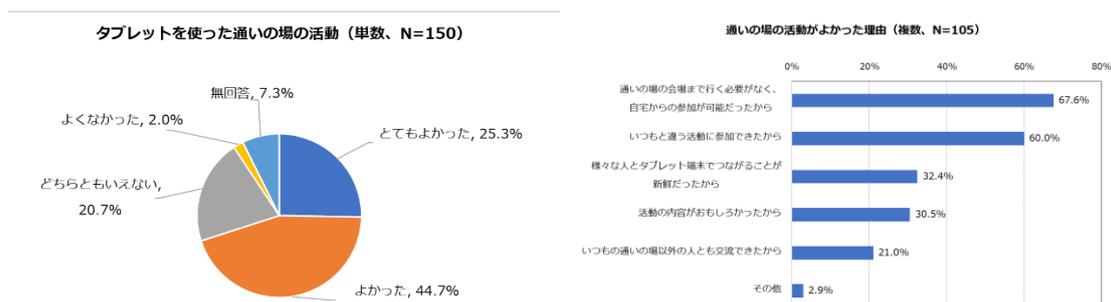
使って楽しかったメニュー（複数、N=150）



### 【タブレット端末を使った通いの場の活動について】

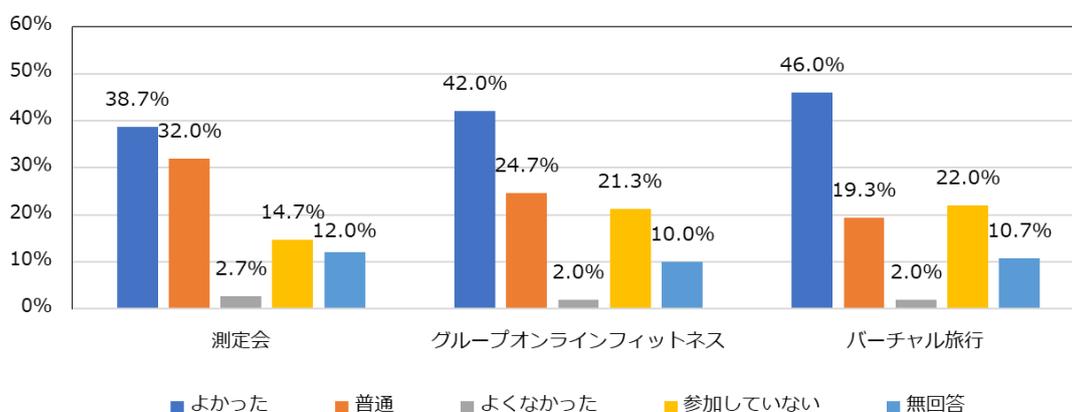
タブレット端末を使ったタブレットが配られてから、通いの場の活動に参加したい気持ちが高まった人は、62.7%となっている。

タブレットを使った通いの場の活動について、「とてもよかった」「よかった」と思った人の割合は、70.0%となっている。その理由について、「通いの場の会場まで行く必要がなく、自宅からの参加が可能だったから」（67.6%）、「いつもと違う活動に参加できたから」（60.0%）が上位に挙げられている。



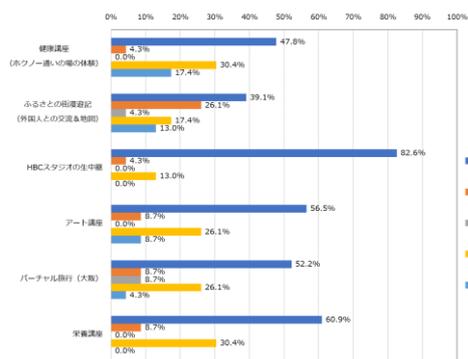
各自治体の通いの場で測定会、グループオンラインフィットネス、バーチャル旅行（浅草）を開催した。それらに対する満足度は、「バーチャル旅行（浅草）」（46.0%）が最も高く、次いで、グループオンラインフィットネス（42.0%）、測定会（38.7%）となっている。一方、同一コンテンツに対する各自治体の評価にばらつきがある。例えば、同じく「バーチャル旅行（浅草）」に対して、猿払村は65.2%の参加者が「よかった」と評価したのに対して、名寄市は21.4%にとどまっている。

### 通いの場の各活動への感想\_全員 (単数、N=150)

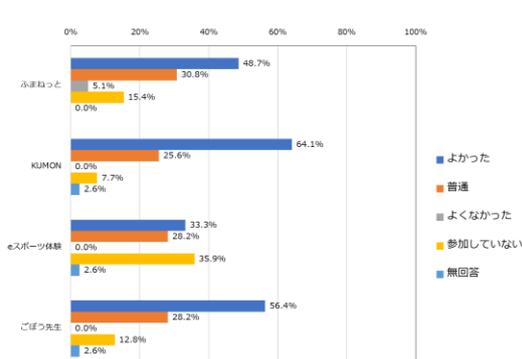


各自治体の需要に合わせて、個別に実施した通いの場の活動について、自治体別にみると、全体の満足度は猿払村（47.8～82.6%）が最も高く、次いで池田町（48.7～64.1%）、千歳市（24.2%～54.5%）、喜茂別町（7.4%～37.0%）、名寄市（3.6%～39.3%）と続いている。喜茂別町と名寄市のプラス評価の低水準は、活動に参加していない人の割合が高いからだと考えられる。

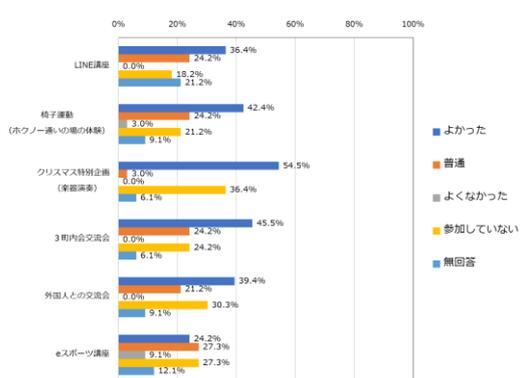
通いの場の活動への感想\_猿払村（単数、N=23）



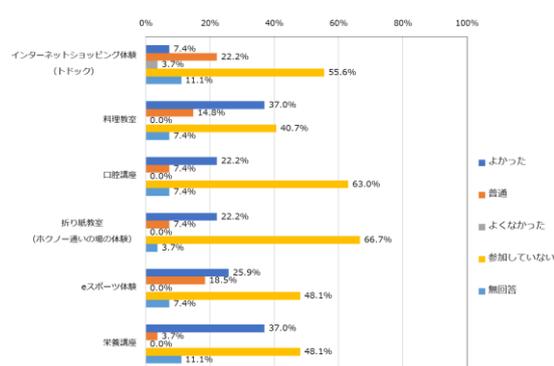
通いの場の活動への感想\_池田町（単数、N=27）



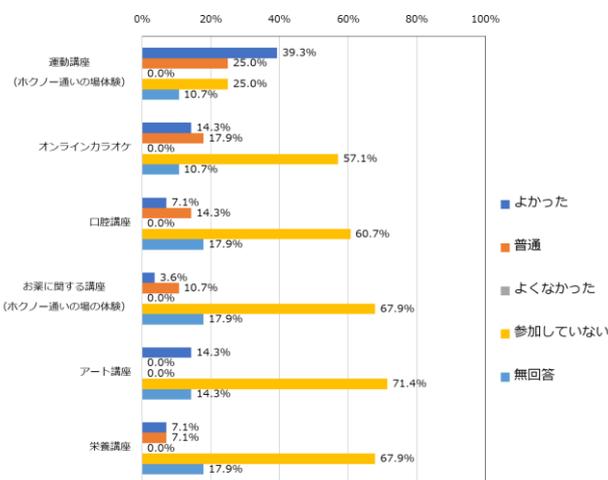
通いの場の活動への感想\_千歳市（単数、N=33）



通いの場の活動への感想\_喜茂別町（単数、N=27）

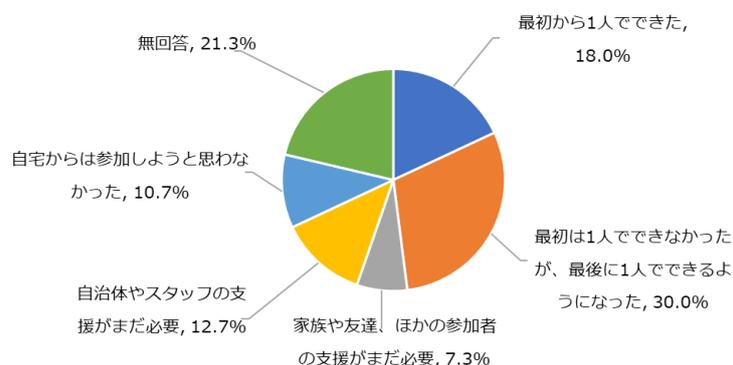


通いの場の各活動への感想\_名寄市（単数、N=150）

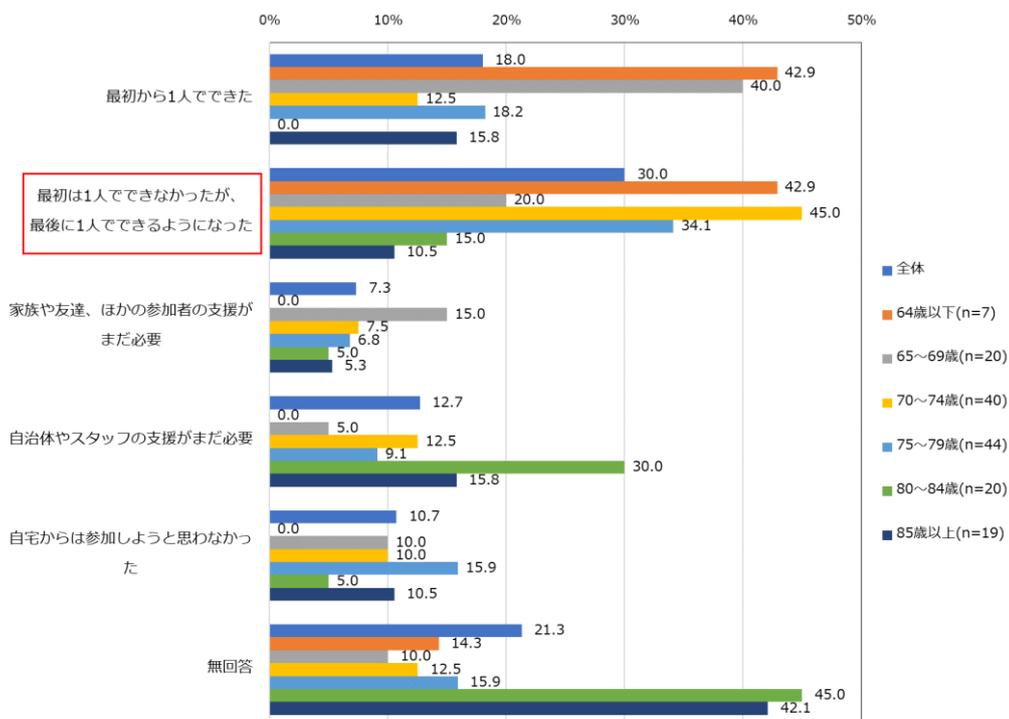


各通いの場の活動の終了時において、自宅から対象高齢者 1 人でタブレット端末を使ってオンラインの活動に参加できる人は、48.0%となっている。そのうち、「最初は1人でできなかったが、最後に1人でできるようになった」の割合は30.0%となっている。また、それについて年齢別から見れば、70代以下の割合が高い傾向にある。具体的に、70～74歳が45.0%と最も高く、次いで64歳以下が42.9%、75～79歳が34.1%となっている。

活動へのオンライン参加能力の習得（単数、N=150）



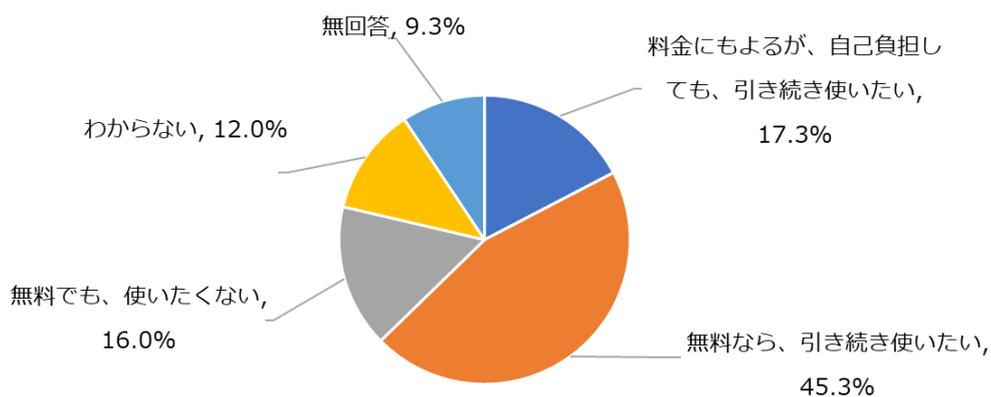
活動へのオンライン参加能力の習得（単数、年齢別）



### 【今後について】

今後も現在の端末を活用したい人は、62.6%となっている。そのうち、自己負担しても引き続き使いたい人は、17.3%にとどまっている。

#### サービスの持続的な使用へ意欲（単数、N=150）



自己負担可能な金額について、機器本体を購入するなら、5,000円未満、機器本体を借りるなら、500～1,000円未満、通信料とメニュー（サービス）使用料を払うなら、月1,000円未満と回答した人が最も多くなっている。

「無料でも、使いたくない」と回答した人は16.0%となっているが、その理由について、操作が難しいからと回答した人が半分となっている。

## 4. 本業務のまとめ

### 4.1 本業務の成果と課題

#### 4.1.1 通信インフラ及び端末

##### 【今年度の成果】

- ・ 176名の対象高齢者にタブレットを配布し、通信環境や周辺設備を整備し、10月～2月の5か月間にわたるオンライン活動の実施ができた。
- ・ タブレット端末のサイズについて、7割強の人がちょうどよかったと評価した。
- ・ トラブル対応を通じて、高齢者の想定外の操作が把握でき、今後のサービスの改善につながった。

##### 【今年度の課題】

- ① 端末について
  - ・ 小さいボタンは押せない、小さい文字は見えないことで、操作に苦労している高齢者が多かった。
  - ・ タブレット端末と個別アプリやWEBサービスの相性問題があった。端末を選定するための検証期間の確保が必要であった。
- ② 通信インフラについて
  - ・ 端末や回線について、利用意向のある人が事業終了後も継続利用できる仕組み作りが必要である。

#### 4.1.2 インターフェース及び提供サービス

##### 【今年度の成果】

- ・ 通いの場の独自のインターフェースアプリの開発ができた。それを通じて高齢者のアプリ利用率等の情報が取得でき、次年度に向けて継続して使うアプリと廃止するアプリの線引きが可能となった。
- ・ インターフェースアプリを除いて既製品のアプリを提供した。高齢者にもスマホやアプリを使いやすくして提供するという観点より、使い方や楽しさを覚えてもらうことができた。
- ・ 様々なタイプのアプリやサービスを利用したことで、タブレットがどういうものであるかは伝わった。利用者自身で興味のあるものを発見できたり、タブレットの操作に慣れたりすることができた。

## 【今年度の課題】

### ① インターフェースアプリについて

- ・ インターフェースアプリのデザインは文字をもっと大きく見やすくする必要があった。
- ・ お知らせ掲示板から直接アプリを起動するなど「自動で」という体験は少なかった。
- ・ お知らせ機能に関しては「一度見たお知らせが流れている」等の意見があったので、LINE や Gmail 等のように既読、未読機能を追加する対応が必要である。
- ・ 直感的な操作性は Apple 製のタブレットのほうが良いと感じるので、iPad にも対応するようなサービスの検討が必要である。
- ・ 年齢や背景により IT リテラシーは異なっていた。電源の入れ方がわからない人もいれば、ネット動画で音楽を楽しみ散歩をする方もいた。オリジナルインターフェースにより操作難易度は下がっていたが、もう一段階簡単に操作できるパッケージがあるとリタイア数が減少できると考えられる。

### ② 導入した既存のアプリについて

- ・ Android 自体がセキュリティ強化されているため、開発したアプリでできることの範囲が狭い。これによりアプリ間の連携がうまくできず、利便性を向上できない部分があった（ブラウザのタブを削除できない等）。
- ・ タブレット端末に多数のサービスを導入したが、カラオケや YouTube、Google マップなど操作が難しいアプリがあり、高齢者にはハードルが高い。各サービスの妥当性について更なる検討が必要である。
- ・ 動画コンテンツの視聴方法をもっと簡略化する必要がある。YouTube の登録チャンネルまでたどり着くのは手間がかかる。独自サーバーで動画コンテンツを配信、インターフェースアプリから直接視聴できる方法の検討が必要である。
- ・ アプリの中には広告が大量に表示されるアプリや、ログインができなくなる不具合のあるアプリがあり、トラブルの原因となっている。導入するアプリの事前検証が必要である。

### ③ 個人情報の管理について

- ・ Google アカウントの管理が煩雑であった。ほかの手法の検討が必要である。
- ・ セキュリティの都合でまとめて登録するなどができず作業時間が想定より増えた。
- ・ 今回は結果的に端末内のデータは全て削除となったが、利用者自身でデータを残せる立ち回りをできるような検討が必要であった。具体的にはマニュアルの作成や講座の開講などで周知を行い、わからない人にはスタッフがデータの取り込みを行う等の対策が必要である。

### 4.1.3 通いの場のコンテンツ提供

#### 【今年度の成果】

- ・ タブレットを操作したという事実は、苦手意識のイライラも含めて色々な意味で高齢者にとって刺激になった。
- ・ コンテンツ内容が豊富で、過半数の高齢者からいい評価をもらった。
- ・ オンラインの活用により、新型コロナウイルス感染症による活動の完全中止状況が改善され、外出機会の減少による高齢者の引きこもりの防止ができた。
- ・ 自宅からでも活動に参加できることは、地域における高齢者の足の確保の問題や北海道の冬に特有の悪天気による活動中止の問題をある程度解決できた。
- ・ 豊富多彩な新しい活動に参加したことで、日常における新たな楽しみが創出でき、従来と異なる活動内容ができた。通いの場の活動内容の多様化に繋がった。
- ・ 新旧仲間との交流により、高齢者の心身的な健康維持がある程度できた。
- ・ 他通いの場との情報交換や交流ができたことによって、複数の通いの場に渡る活動の同時開催のきっかけづくりができた。
- ・ ICT の活用による活動の開催は、男性参加者の促進に繋がった。
- ・ 通いの場に所属していない人との活動への同時参加により、通いの場の新たなメンバーの発掘に繋がった。

#### 【今年度の課題】

- ・ 遠方（猿払村）でオンラインでの説明会を実施した。形式上説明会を行ったものの、高齢者の反応や手ごたえは不明であった。一般的な使い方を伝えたが、「電源が入らない」、「ポップアップ広告がでてきた」、「機内モードになっている」等ケースバイケースな状況に対応できなかった。オンラインによる説明会に限界がある。
- ・ 自治体を跨るような大人数で楽しむ活動の開催ができなかった。
- ・ ICT による活動の持続化が課題である。
- ・ 通いの場の活動の運営における効率化の検討が必要である。
- ・ 高齢者に情報を効率的に提供できる方法の更なる検討が必要である。
- ・ オンラインによる通いの場の活動の実施可否は、通いの場のリーダーの IT リテラシーに大きく影響されている。通いの場における IT リテラシーの高い高齢者の育成が必要である。
- ・ オンライン活動を実施するには、様々な周辺設備が必要である。それらの設備を確保する経費の捻出が課題である。
- ・ 確実に高齢者の介護予防に繋がるような活動の企画が必要である。
- ・ ICT に興味のない高齢者やオンライン参加のハードルが高い高齢者でも平等にオンライン活動に参加できるような仕組みが必要である。

#### 4.1.4 ICT コーディネーターの配置

##### 【今年度の成果】

- ・ コーディネーターと現地スタッフの協力体制がある程度構築できた。
- ・ 高齢者のタブレット操作への不安の減少、誤作動による端末のトラブルの減少、Zoom や YouTube、LINE 等アプリの活用によって、参加高齢者の IT リテラシーが向上した。
- ・ 自治体の担当者に一度の説明で操作手順の理解ができた。自治体関係職員の IT リテラシーも向上した。
- ・ タブレットの使い方講座の開催や、電話相談対応などにより、高齢者のタブレット利用を促進した。

##### 【今年度の課題】

- ・ 年齢や理解力等様々な要素により、タブレットの活用への個人の温度差がある。高齢者の間における IT リテラシーの差がより一層大きくなった。
- ・ 事業後半（12 月以降）の問い合わせは減少した。操作能力が向上した、もしくは諦めて触らなくなったと捉えることができる。よく触るから問い合わせがある、またはほとんど触らないから問い合わせがない、の 2 極化している可能性もある。ほとんど触らない人に対して訪問説明会や半強制的にタブレットを触ってもらう機会を作り、多くの人にタブレットを楽しんでもらうような工夫が必要である。
- ・ マニュアルを作成し、紙による配布や動画の作成など様々な工夫をしたが、内容が多くて、熟読する人はあまりいなかった。
- ・ 高齢者に合わせて易しい言葉で説明したが、理解しているかどうかわからない。自分で操作できるような理解を促す必要がある。
- ・ タブレット端末に関する高齢者のトラブルは、対面でないと解決できないものが多く、いかに即時的に、効率的に問題を解決するかが課題である。
- ・ 実証時間が短く、高齢者に対する説明会の開催や支援の回数に不足感がある。タブレットに関する講習期間が足りなかった。
- ・ タブレット端末に関する高齢者のトラブルをフォローする人手が不足で、効率的に問題を解決する手法の模索が必要である。
- ・ 地域における IT リテラシーの高い人材育成が必要である。

## 4.2 今後の展開に向けて

今回モデル事業に参加した自治体においても、通いの場の実施主体や参加者の平均年齢活動内容など事業の実施環境は異なっており、今後、道内の他の自治体も含めた ICT による通いの場を展開していくためには、導入を予定する市町村において地域の特性や社会資源等に応じ、対象となる高齢者へのきめ細かい対応等の検討が重要になる。

このため、今後の事業展開に向けては、次の事項も踏まえ、今回のモデル事業で得られた課題や成果等について、道内自治体に広く周知を行うことが必要である。

### 4.2.1 通信インフラ及び端末

本実証では、事務局でタブレットを購入し、通信費用もすべて負担したが、事業化する場合は、自治体の事業という側面から、本実証のように特定の高齢者を対象とすることは難しいこと、事業費が膨大となる可能性もあり、タブレット（あるいはスマートフォン）の用意や通信料金はすべて利用者が負担するモデルが現実的である。

そのうえで、ICT 通いの場への参加を希望する高齢者が、タブレットの購入等について具体的に検討し、安心して利用いただけるよう以下に係る情報提供を行う説明会等を開催する必要がある。

### 4.2.2 インターフェース及び提供サービス

本実証では、タブレットに使い慣れていない高齢者の利用を促進するため、専用インターフェース（ANATATO）を開発し、タブレットにインターフェースやインターフェースの各ボタンに紐づくアプリやWEBサイト等をすべてインストールした上で配布した。

#### (1) インターフェースアプリの普及促進

アンケート結果では、多くのモニターが当初はタブレットの利用に不安があったものの、実証終了時点では、一定程度、タブレットの利用に慣れたという結果となっており、インターフェースの見やすさや使いやすさも貢献したと想定される。

今後は、既存のタブレットやスマートフォンのユーザーも含めて使いやすいインターフェースなどをより多くの高齢者へ普及していくことも重要である。

#### (2) 導入するコンテンツの検討（アプリやWEBサービス）

今回の実証では、オンライン通いの場で活用する Zoom や KizunaWEB に加えて、カラオケや脳トレ、動画閲覧などが可能な様々なアプリやWEBサービスを導入したが、Zoom（ID やパスワードを都度入力する手間を省くため、自治体ごとに専用アカウントを作成）やカラオケなど、いくつかのコンテンツは有料サービスであり、すべて事業費から賄った。

こうした有料サービスは、今後は利用者による自己負担が現実的である。

今後は、今回の高齢者の利用実態などを踏まえて、インターフェースのボタンに紐づけるアプリやWEBサービスの再検討が必要である。

そのうえで、高齢者や自治体のニーズに合わせてカスタマイズをサポートする体制の検討が必要である。

### (3) アカウントやアプリ等の管理

今回は各モニターに Google アカウントを発行したが、セキュリティの都合でまとめて登録することができないなど、作業時間が想定より増えた。また、アプリの更新などについて都度、タブレットに通知が出るため、戸惑う高齢者も少なくなかった。

今後、利用する自治体や高齢者が増加した場合、上記の作業がさらに煩雑になり運営コストの増大が見込まれる。

そのため、少なくとも端末の設定情報の管理や提供アプリ更新、アカウントの管理は、集中管理できることが望ましく、MDM ツールの活用も検討する必要がある。

#### 【MDM について】

MDM ツールとは業務で利用するモバイル端末を一括管理し、遠隔操作やアプリケーション管理などの機能によって、各端末のセキュリティを強化するシステムである。

## 4.2.3 通いの場のコンテンツ提供

今回の実証では、月2回、各自治体においてオンラインによる通いの場コンテンツを提供した。コンテンツにはeスポーツやバーチャル旅行、料理教室など、これまで高齢者が体験したことがないコンテンツの提供、従来の通いの場のコンテンツについてオンラインでの実施可能性を確認でき、一定程度の評価が得られた。

### (1) コンテンツ提供に向けた役割分担の考え方

今回は、コンテンツの企画から運営（講師の手配、調整、当日運営）に至るすべてを事務局で対応したが、今後の事業化を想定すると、フルスペックで外部に依頼することが現実的ではなく、以下のような役割分担を検討することが望ましい。

また、コンテンツが用意できなかつたり、予算に課題があつたりする自治体については、既存のオンライン配信される健康講座などの活用も検討される。

### (2) 複数の通いの場の連携によるオンライン通いの場の運営

オンライン通いの場をより多くの住民に体験してもらうためには、今回の通いの場を含めて、地域住民の交流や居場所となっている通いの場（大型モニターやWIFI環境が整備

されているところが望ましい)に、タブレットを設置するなどの体験を進める工夫が必要である。通いの場の運営以外の時間帯では、タブレットを自由に操作してもらい個人でのタブレット等の利用を促進することも可能である。

また、タブレットによる教育が進んでいる小中学校等と連携し、高齢者と子どもとの交流など、多世代交流促進の手法として、複数拠点をつないだオンライン通いの場の開催も有効である。

#### 4.2.4 ICT コーディネーターの育成と配置

今回の実証では、事務局に ICT コーディネーターを配置し、自治体等のサポートもいただきながら、高齢者に対するタブレットの使い方の説明や、タブレット使用における高齢者からの相談への対応を行った。

前述のとおり、当初予想していないトラブルが様々なあったこと、また、高齢者から直接、ICT コーディネーター電話があった場合、トラブル解消に向けた説明やアドバイスに限界があった。

一方、池田町や喜茂別町では、高齢者がタブレットを通いの場に持参し、適宜、通いの場運営者のスタッフに、実機を使いながら使い方やトラブル解消をサポートいただき、高齢者の不安を払拭することができたと考えている。

こうしたことから、今後は現地で高齢者のサポートをできる体制整備がより重要である。

自治体の人口規模によって、人材の偏在が課題となるが、各自治体で必ず配置されており、通いの場の円滑な運営が役割の一つとされている生活支援コーディネーターの活用なども含め、自治体や地域の人的資源に応じて、通いの場の ICT サポートができる人材の発掘や担い手となる人材を育成し配置していく必要がある。